

病虫害発生予察特殊報 第1号

害虫名：トビイロシワアリ
学名：*Tetramorium tsushimae* Emery
発生作物：ブロッコリー

1 発生確認経過と県外での発生状況

平成30年5月、南信地域の露地栽培ブロッコリーにおいて、地際部から枯れ込む症状が見られ、掘り返したところアリが大量に発生していた。

名古屋植物防疫所に同定を依頼した結果、トビイロシワアリであることが判明した。

本種は屋久島以北の日本各地に分布しており、これまで福岡県、千葉県、広島県、香川県、佐賀県、長崎県、山口県、滋賀県、群馬県、茨城県、静岡県および埼玉県の12県で農作物への被害報告がある。

2 形態

働きアリの体長は2.5mm前後。体色は褐色から黒褐色。頭部及び胸部の表面に縦向きの平行したシワがある(図1, 2)。

3 生態と被害

- (1) 草地など開けた場所に生息し、草の根元や石下などに営巣する。巣の入り口は盛り上がり、クレーター状になる。多数の女王アリが同居する巣もあり、その場合は大規模なコロニーを形成する。
- (2) 雑食性で、昆虫や種子、樹液などを食べる。
- (3) 農作物への被害は、主に地際部の表皮を食害することで生育が抑制され、被害が激しい株は枯死する(図3, 4, 5)。これまでにキャベツ、ブロッコリー、はくさい、ばれいしょ、アスター、なすおよびカンキツで本種による被害が確認されている。

4 防除対策

- (1) 平成30年6月13日現在、本種に対する農薬登録はない。
- (2) 深耕やかん水など、物理的・耕種的防除により巣の破壊に努める。



図1 トビイロシワアリ



図2 頭部拡大



図3 ブロッコリー被害ほ場
写真提供：野菜花き試験場



図4 ブロッコリー地際部の被害
写真提供：野菜花き試験場



図5 健全株(上)と被害株(下)
写真提供：野菜花き試験場

長野県病害虫防除所 中南信担当
TEL： 0263-53-5642 (直通)
FAX： 0263-54-4508
E-mail： bojo-y@pref.nagano.lg.jp